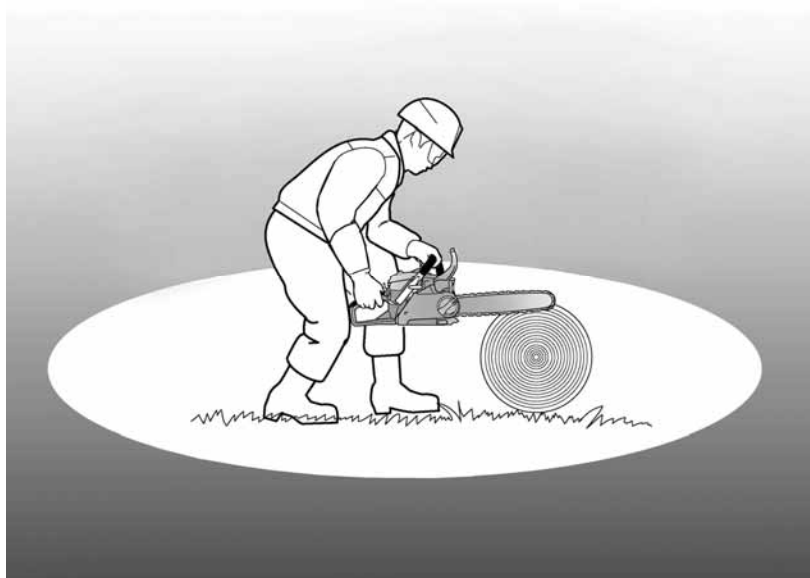


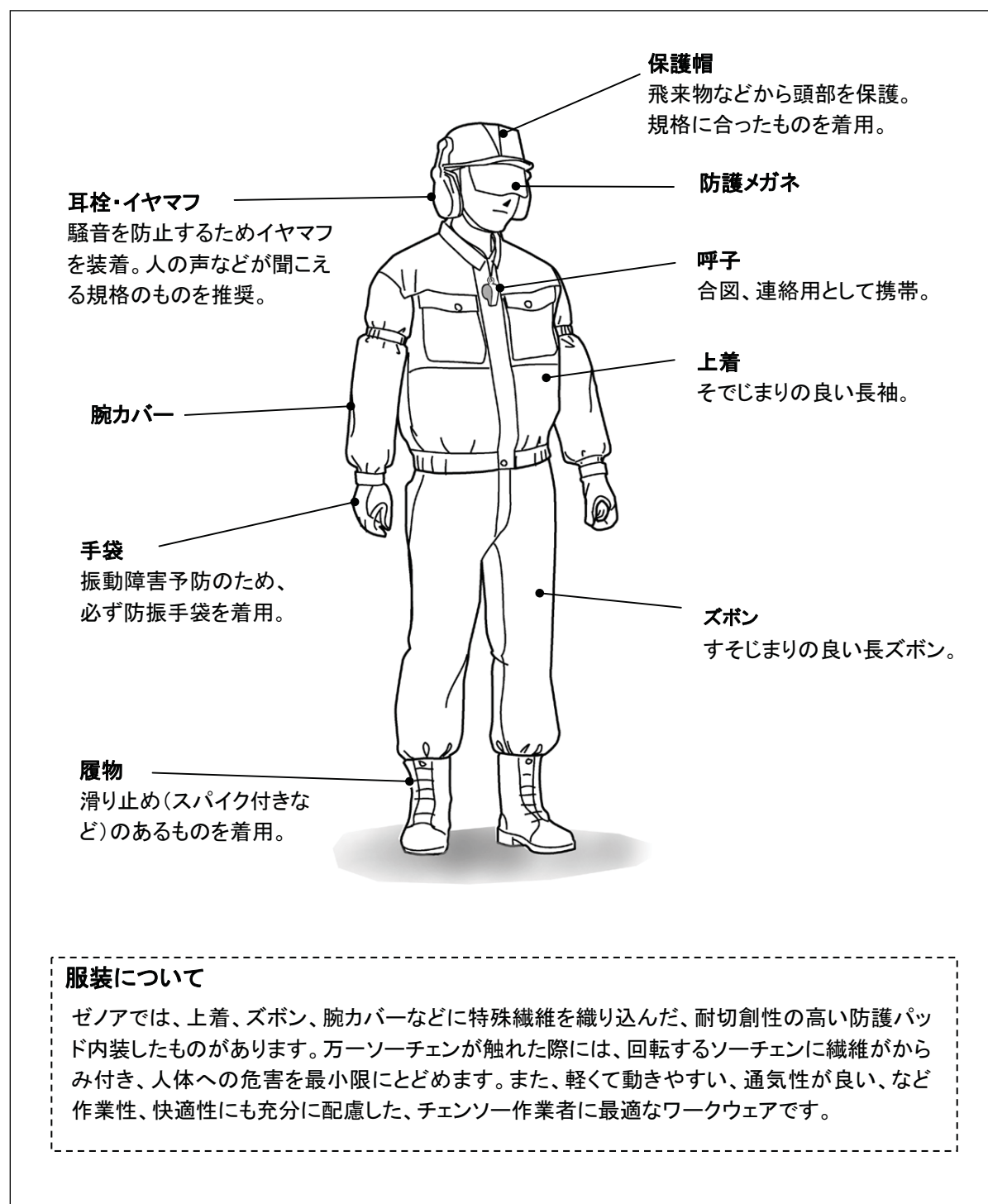
チェーンソー 安全講習テキスト



1 服装と装備品

1.1 服装と保護具

服装と保護具は労働災害から身体を守る重要な要素、安全で使用目的に合ったものを着用してください。



1.2 作業用具と取扱い

作業を行う場所の調査結果を参考に、主に次の用具を準備してください。

① ナタ

枝払いに使用。

② 腰ノコ

③ オノ

クサビの打ち込み。

④ クサビ

伐倒、ガイドバーが引き抜けなときなどに使用。2枚（薄いもの、厚いもの）準備する。

⑤ ヤスリ

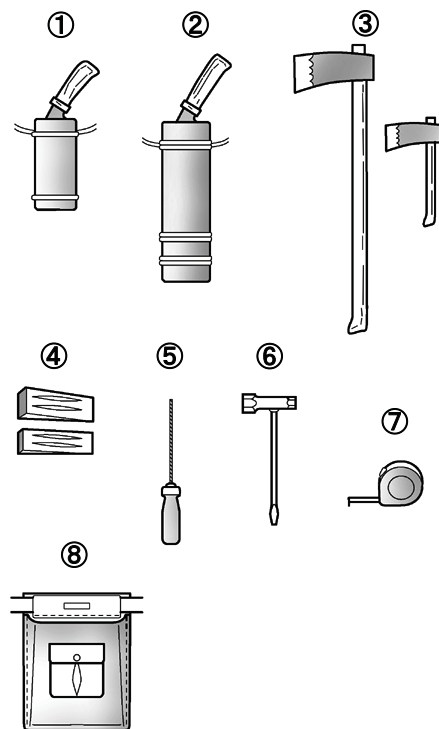
ソーチェンの目立て用で、規格に合ったものを準備する。

⑥ ドライバー、プラグレンチなどの工具

⑦ スケール

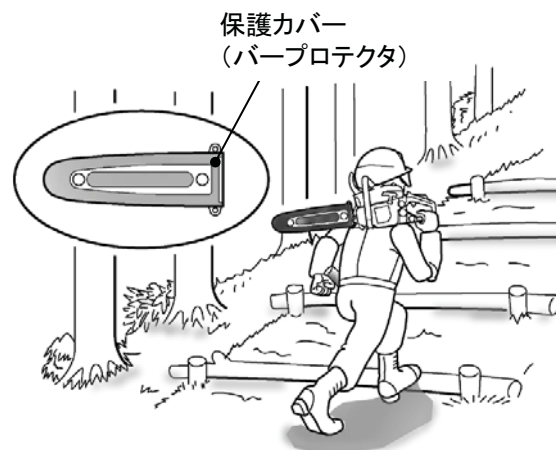
⑧ 腰袋

クサビ、ヤスリなどを入れる。



■ 刃物保護カバー

刃に接触することによる災害の防止と刃を保護するため、ソーチェンやオノ、ナタなどの刃物には必ず保護カバーを付けること。



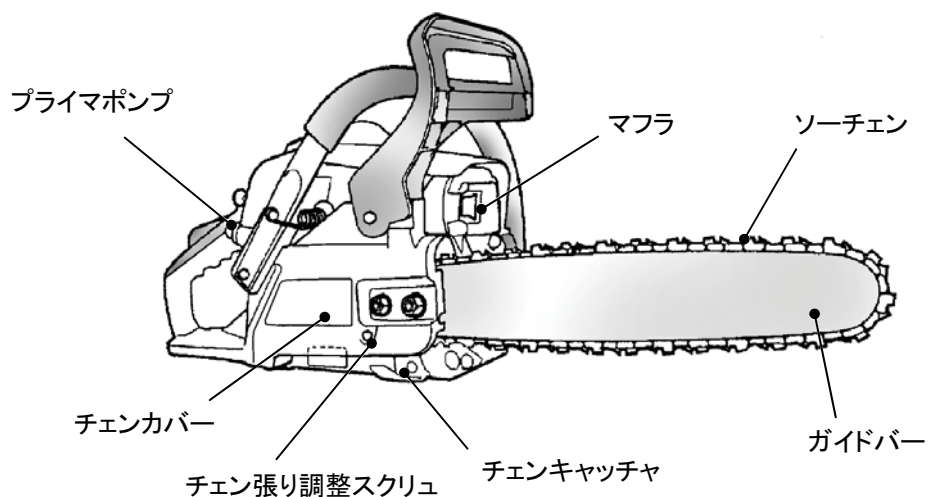
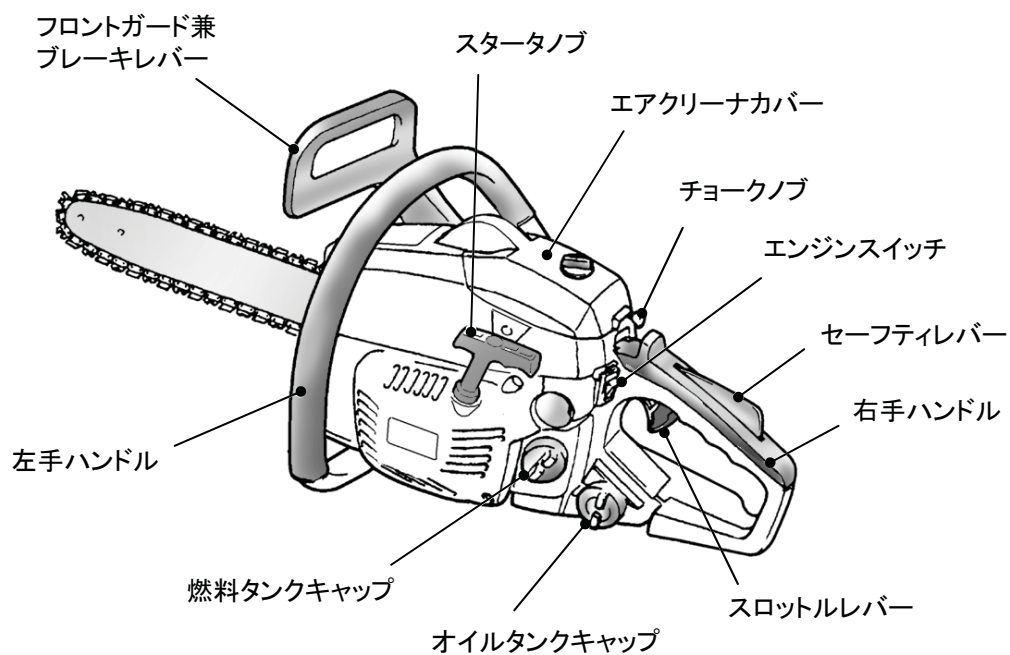
■ 作業用具の取扱い

- ・チェーンソーを持って移動する際は、必ずエンジンを止めること。
- ・現場では、伐倒木など不安定な場所に用具を置かないこと。
- ・用具は安定した場所に、整理・整頓しておくこと。
- ・刃物の保護カバーを外したさいは、他の作業者にもよく見えるようにしておくこと。
- ・作業終了後は、点検・整備を行い所定の場所に保管すること。

2

チェーンソーの構造

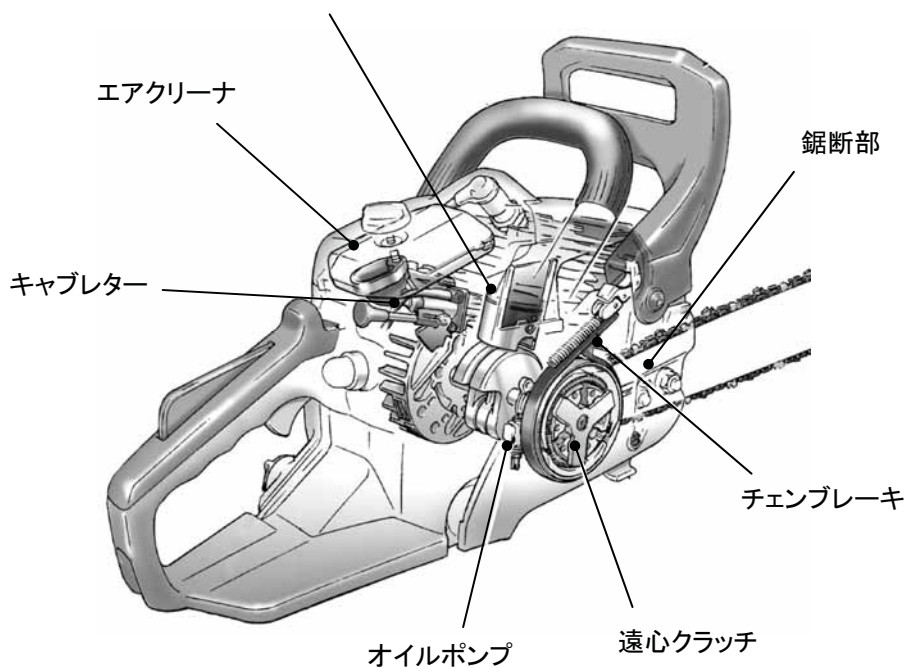
2.1 各部の名称



2.2 エンジン部の構造

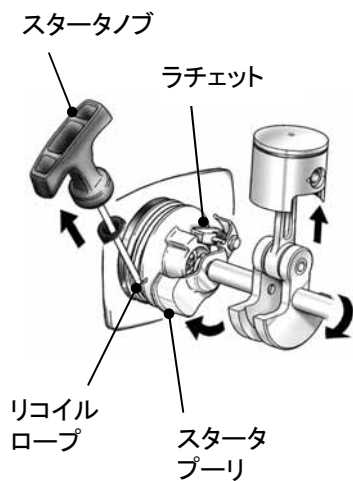
■エンジン(動力)

単気筒空冷の2サイクルガソリンエンジンで、燃料は潤滑油混合ガソリンを使用し、排気量は 25～62cm³ となっています。



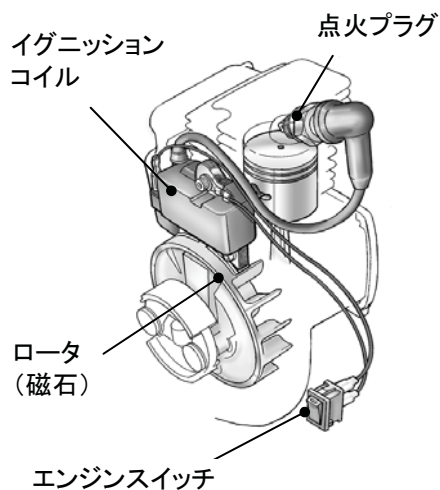
■スタータ(始動装置)

エンジン始動方式は、ロープを引き出すリコイルスタータ式が多く採用されています。



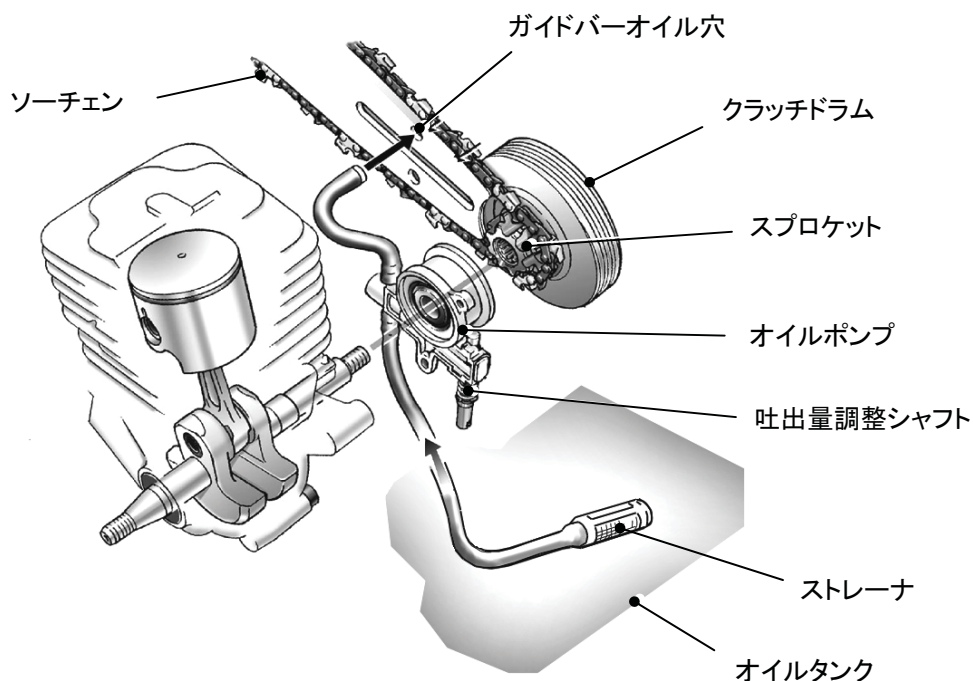
■イグニッション(点火装置)

マグネット点火によって気化した混合気に飛火させます。マグネットは永久磁石を使用した発電機で、断続器を組み合わせて点火用高電圧を発生。断続器には機械的に行うポイント式、電子回路を使用したTCI方式やCDI方式があります。



2.3 動力の伝達と潤滑

エンジンの動力は、遠心クラッチでクラッチドラムに伝達され、クラッチドラム一体のスプロケットがソーチェンを駆動、同時にソーチェン潤滑のオイルポンプも駆動します。



■スプロケットの種類

●リムスプロケット

ソーチェンがリムの溝と噛合って駆動、スムーズで振れが少なく走行が安定しており、磨耗による交換時もリムのみで済むため経済的。ただし寸法強度上の制約があり、1/4 ピッチソーチェンが使用できません。

●星型スプロケット

スプロケットの歯で直接ソーチェンを駆動、ソーチェンの振れやスプロケットの磨耗ではリム式に劣りますが、1/4 ピッチソーチェンが使用できます。

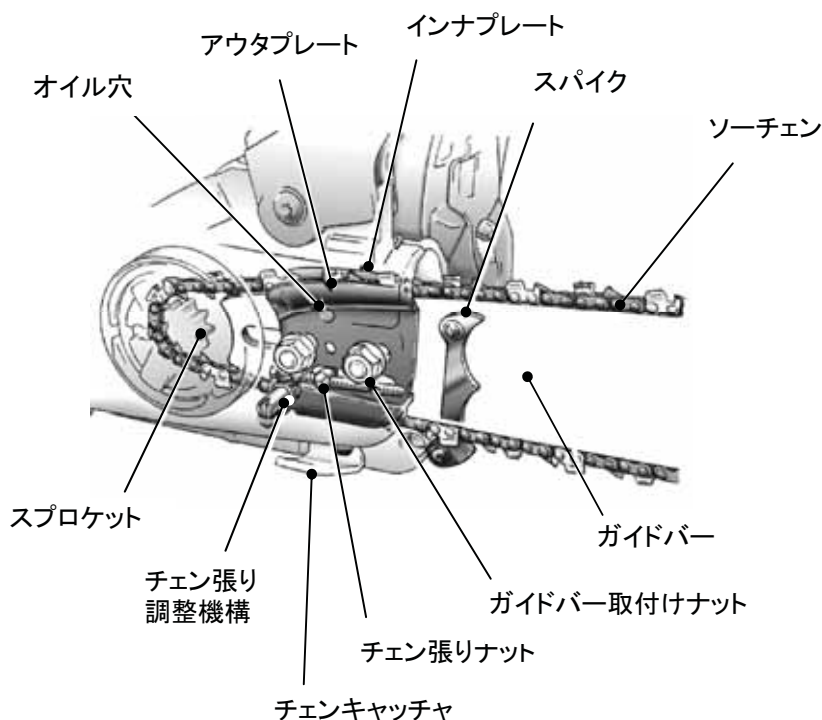


■オイルポンプ

エンジン回転に連動して回り、機体ケース内のオイルタンクからオイルを吸入、ガイドバーのオイル穴に吐出します。ガイドバーに供給されたオイルは、ソーチェンのドライブリンクによってガイドバー全周に行き渡り、ソーチェンとガイドバーの発熱と磨耗を防止します。

2.4 鋸断部

ガイドバーをインナプレートとアウトプレートではさみ込み、ガイドバーの長穴部をナットで固定。ガイドバーの下穴にチェーン張りナットが差し込まれています。このガイドバー取付け部をモータマウントと呼び、チェーンソーによってマウント型式も異なります。ソーチェーンのドライブリンクが、ガイドバー外周の溝に沿ってセットされ、スプロケットと噛み合っています。



■チェーン張り調整機構

ソーチェーンが伸びた際、調整ネジでガイドバーを前後に移動し、チェーンの張りを適正にするための機構。

ゼノアでは、オートテンショナ（自動チェーン張り）を装備した機種があり、工具を使わずにチェーンの張りを自動的に調整します。

■スパイク

切断時にこの部分を木材に食い込ませて機体を安定させます。

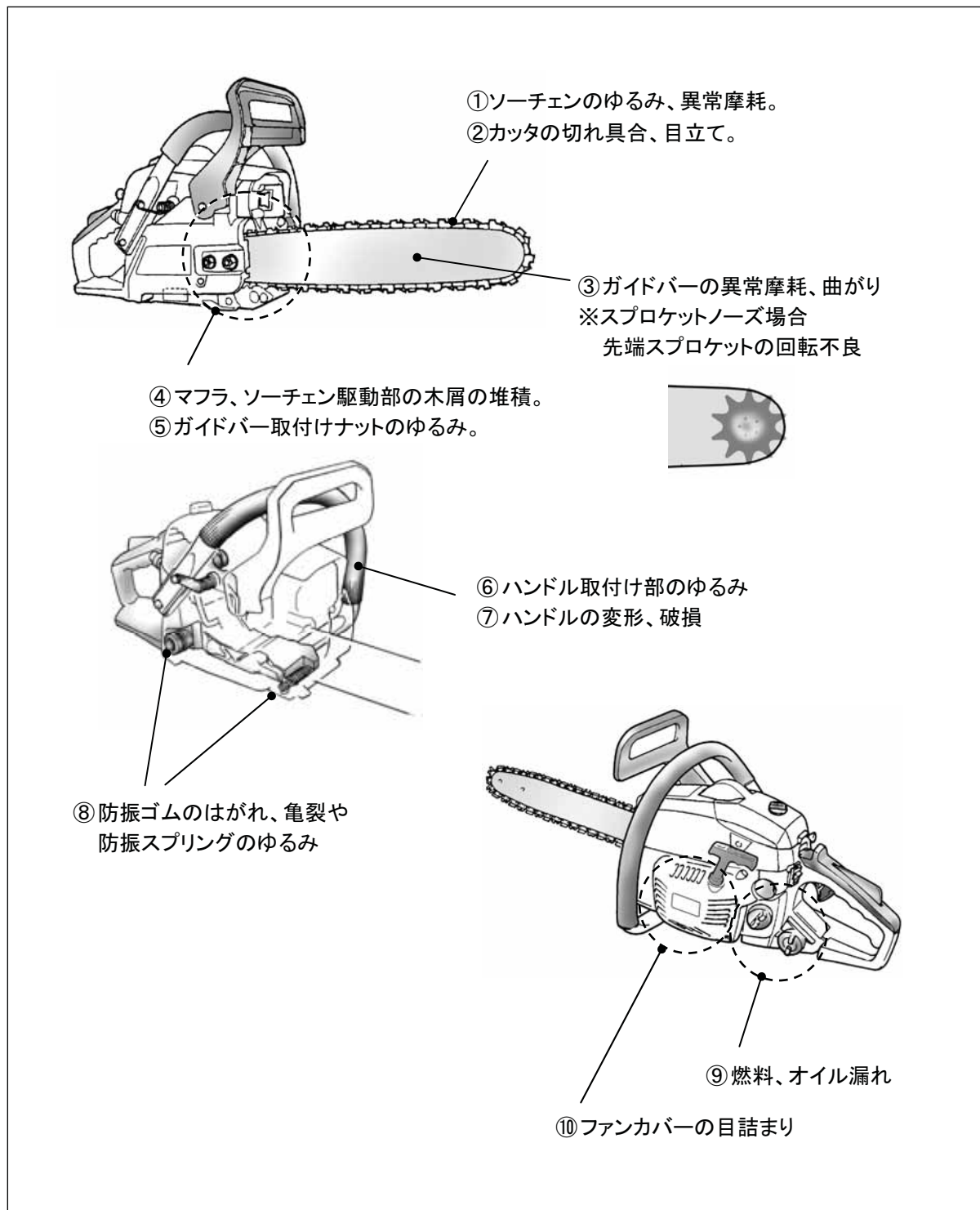
■チェーンキャッチャ

作業時、外れたチェーンが作業者に当たるのを最小限に食い止めます。

3.1 運転する前に

(1) 使用前の点検

チェーンソーを使用する前に次の点検を行い異常がないことを確かめてください。



3.1 運転する前に

(2) 混合燃料について

燃料は必ずガソリン(燃料)とオイル(潤滑油)を混ぜた「混合ガソリン」を使用します。

- ・ オイルの混合比率が極端に低いと潤滑不足になり、エンジンが過熱し出力が低下、さらに焼き付きの原因となります。
- ・ 4サイクルエンジン用オイルは使わないでください。スパークプラグ汚損やピストンリング固着、マフラ詰まりなどを起こしやすくなります。

混合比

■ゼノア純正2サイクルオイル(FC級)使用時
40:1 (ガソリン4L に対しオイル100cc)

■市販2サイクルオイル(FB級)使用時
25:1 (ガソリン4L に対しオイル160cc)

無鉛レギュラー
ガソリン

2サイクル
エンジンオイル



ゼノア純正 ビッグバンガソリンについて

ゼノア純正混合ガソリン「ビッグバンガソリン」は、運転休止期間の長いエンジン機器用に開発された2サイクルエンジン専用の混合燃料です。

- 変質しにくい特殊ガソリンの採用でキャブ詰まり追放
- エンジン内部を摩耗や汚れから守り、排気をきれいにする各種添加剤配合
- 混合の手間不要
- 給油・持ち運び・保管に便利な金属容器入り

などのすぐれた特長を持っており、運転休止の直前にお使いになるだけで運転再開時のエンジントラブル予防効果を発揮します。

詳しくは販売店にお問い合わせください。

(3) 給油



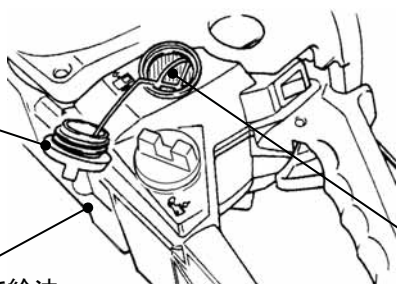
くわえタバコでの燃料補給は危険ですので、絶対にしないでください。



燃料給油口表示のタンクキャップを外して、混合ガソリンを給油。チェンオイル給油口と取り違えないこと。

タンクキャップ

機体を水平にして給油



燃料は8分目まで、少しずつ給油。
こぼれた場合は、完全に拭き取る。

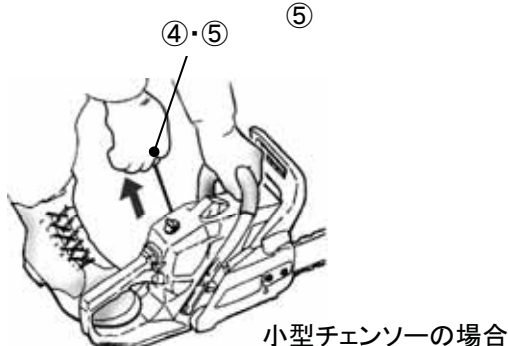
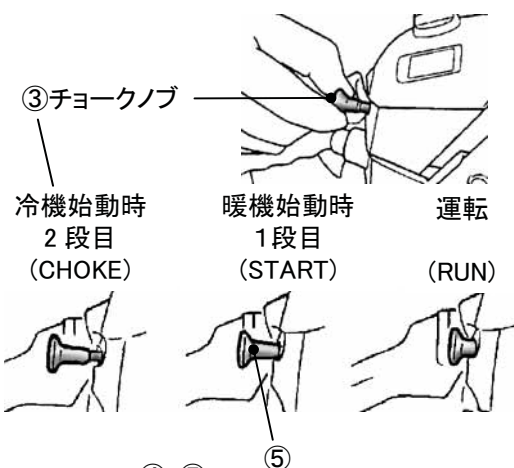
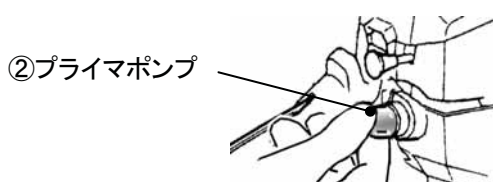
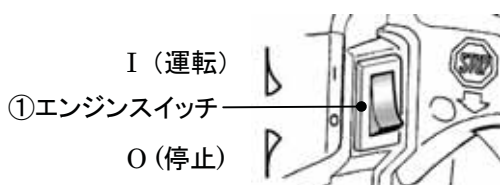
3.2 運転

(1) エンジンの始動

給油場所から約3m以上離れた位置でエンジンを始動。また、燃料が地面にこぼれた時は、場所を移動してください。周囲の安全を確認し、機体を地面に置いて確実に保持します。



エンジンが始動すると同時にソーチェンが回ります。ソーチェンが地面や周囲の障害物などに触れる危険がありますので片手で機体を持ち上げたまま始動しないでください。



小型チェンソーの場合



エンジンが冷えている始動

- ① エンジンスイッチを(I)“運転”にする。
- ② プライマポンプで燃料を送る。
- ③ チョークノブを2段引き出し、“CHOKE”位置にする。この操作で、チョークが閉じてスロットルレバーが始動位置にセットされる。
※停止直後など、エンジンが暖まっているときはチョークノブを1段目“START”位置でスタートノブを引く。
- ④ 左手で前側のハンドルを握り、右足をフレーム部にかけてながら右手でスタートノブを引く。



引くときは、スタートロープを最後まで引き出したり、ノブを手から離して戻したりしない。スタータ故障の原因となります。

- ⑤ エンジンの初爆発音がしたら、スロットルレバーを軽く引いて、チョークノブを1段目“START”位置に戻し、再度スタートノブを引いてエンジンを始動。
- ⑥ エンジン始動後、次の内容を確認する。
 - ・ スロットルレバーを完全に戻したとき、ソーチェンが停止する。
 - ・ アイドリングが安定している。
 - ・ スムーズに加速する。



不具合がある場合は、キャブレターを調整する。(26頁参照)

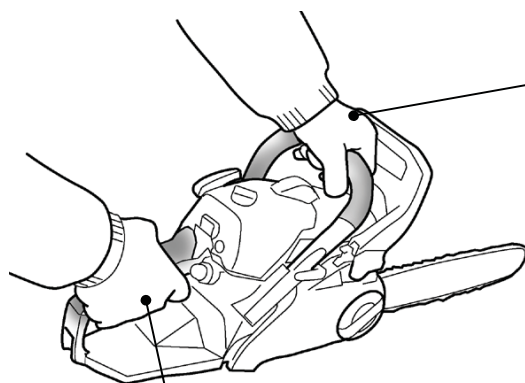
- ⑦ 2～3分暖機運転する。

4 鋸 断

4.1 作業姿勢

正しい作業姿勢が、安全作業につながるとともに能率も上がり、振動傷害の予防にもなります。

(1) ハンドルの正しい握り



● 左手

キックバックに備え、必ず親指を下にして左手ハンドルを握る。

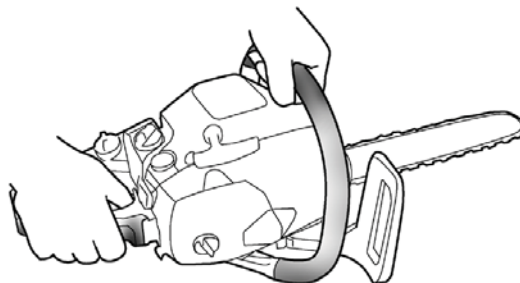
手首はまっすぐに。曲げると腕が疲れる。

● 右手

セーフティレバーを押しながら右手ハンドルを握り、人差し指でスロットルレバーを操作。

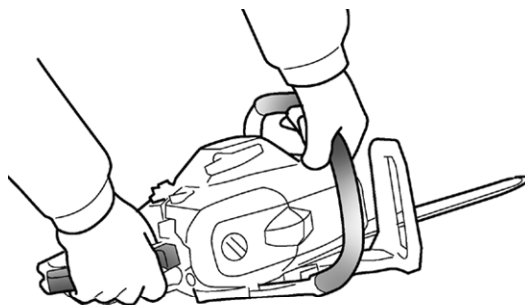
● 水平切りする場合

左手は左手ハンドルの側方部を持って機体を寝かす。バー上部で水平切りする際、スロットルレバーを右手親指で操作すると作業しやすい。



● 斜め切り(30度から45度)のとき

左手は左手ハンドルの曲がりの中間部を持つ。



4.1 作業姿勢

(2) 構え方

● チェンソーは身体から近くで使う



両肘は身体から離さないこと。離すと背中や腕に負担がかかるとともに、ハンドルを強く握るようになり、振動傷害予防上からも好ましくない。

右腕のひじを右脇腹に付け、左腕をわずかに曲げる。受け口切り、追い口切りの時には、左腕のひじを左足の膝か、ももに付けるようにする。

● 立った姿勢の構え方



左足をやや前方に出し、両足を肩幅程度に開いて構える。

傾斜地ではスリップに注意。

● 低い姿勢の構え方



鋸断位置が低い場合、立った姿勢と同じ構えで中腰の安定した姿勢をとる。

受け口切り、追い口切りなどで鋸断位置がさらに低くなる時は、立木に近い左足を立てひざとし、右足を折り曲げて構える。

4.2 鋸断時の留意点

作業前に付属の取扱説明書「安全作業について」の項と別冊の「チェソーのしおり」を熟読し、簡単な丸太切り作業を数回行い、チェソーの取扱いによく慣れてください。



正しく目立てされたソーチェンを使用すれば、自然に材に食い込まれるように切れていくため、左手は前ハンドルを握っているだけでよく、押し付ける必要がありません。

(1) 一般的な注意

- ソーチェンを木材に強く押し付けて切らない。



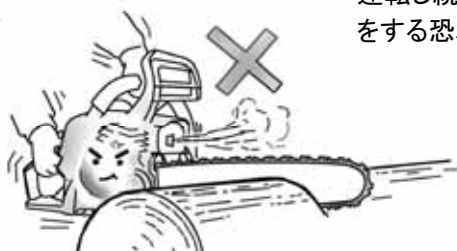
強く押し付けると腕の疲れが増すだけでなく、ソーチェンやガイドバーの磨耗を早め、機体にも無理がかかる。

強く押し付けないと切れない場合:

カッタの切れ味が低下。

正しく目立てをするか、新しいソーチェンと交換する。

- ソーチェンが回らない状態でエンジンを高速運転しない。
(ストール状態)



運転し続けると、クラッチが発熱し、故障をする恐れがある。

- 鋸断はスロットル全開で

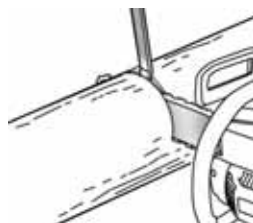


ソーチェンを木材に軽くあて、エンジン回転が下がらないよう、押し付け力を加減する。

- 木に挟まれてソーチェンが回らなくなったらエンジンを止める。



直ちにスロットルレバーを戻してエンジンを止め、バールやクサビなどを使って切り口を開く。



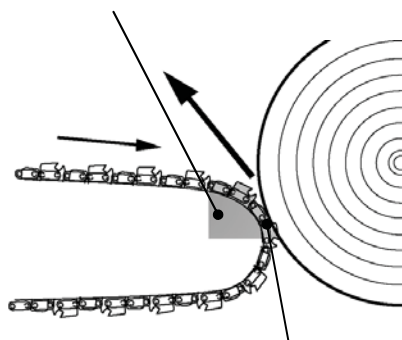
4.2 鋸段時の留意点

(2) キックバックに注意

キックバックは、走行中のソーチェンが木材などの障害物に当たり、ガイドバーが跳ね上がる現象のことです。

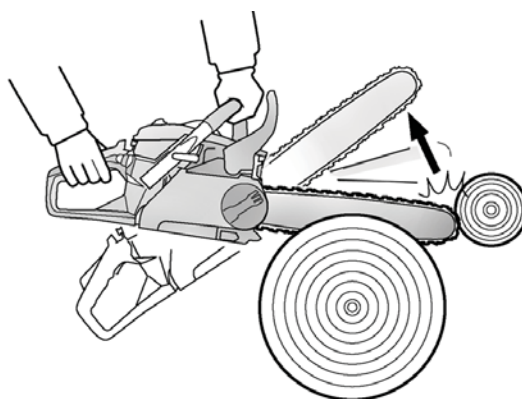
●キックバック発生位置

ガイドバー先端部の上側円周部分がキックバックを起こしやすい。



カッタのデプスゲージ部
が材に激しく当たる。

ガイドバーが上に跳ね上がる。



●キックバックの防止

- ・ガイドバー先端の上部を当てないように注意する。
 - ・鋸断中、材などに隠れた小丸太、末木枝条に触れないように注意する。
 - ・キックバックを起こしにくいソーチェンの使用。
- 例) 91VSなど、ガードリンク付ソーチェンを使用してキックバックを防止する。

(3) 作業時間について



チェーンソー操作時間を、一日2時間以下にする。

振動障害予防対策の基本として、チェーンソーの操作時間を1日2時間以下にすること。また、他の作業を計画的に組み合わせ、チェーンソーを使わない日を設けるなどして、1週間のチェーンソー操作時間を短縮する。

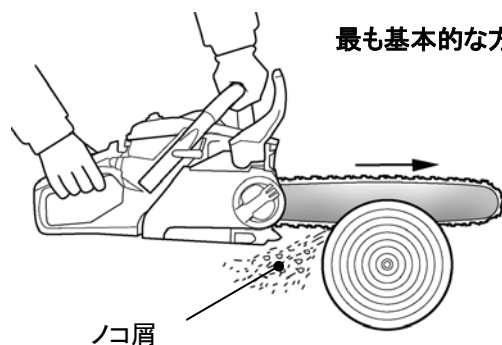


チェーンソーの一連続操作
時間は、長くても10分以
内とすること。



4.3 鋸段方法

(1) ガイドバーの下で切る

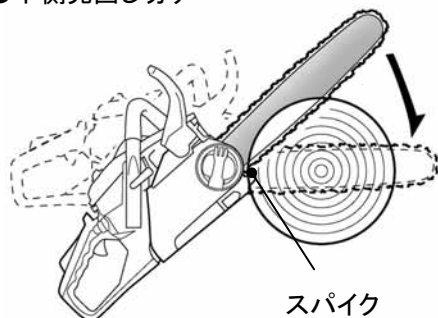


最も基本的な方法。

ガイドバー下側ではソーチェーンが作業者方向にむかって走っているため、チェーンソーが前方に引っ張られる。

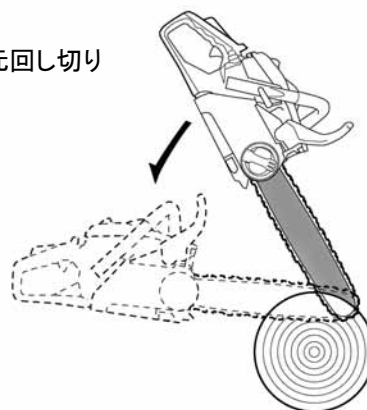
林業などで大径木を伐倒する際、ガイドバー先端を回す“先回し切り”、および手元を回す“元回し切り”がある。

● 下側先回し切り



スパイクを当てた箇所を軸に、ガイドバー先端部を回して扇形に切り進める方法。

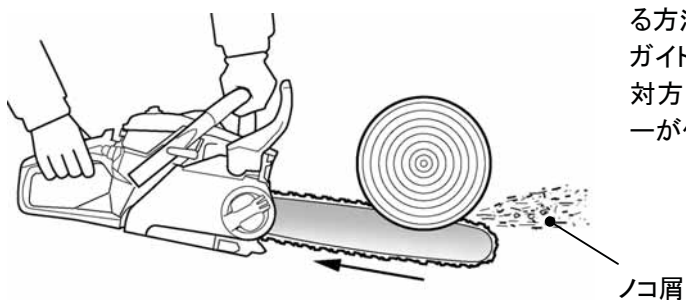
● 下側元回し切り



ガイドバー先端を軸にして、根元部を回すように機体を動かして、扇型に切り進める方法。

(2) ガイドバーの上で切る

しっかりと機体を保持すること。



ガイドバーの下で切れない状況の時に用いる方法。

ガイドバー上側ではソーチェーンが作業者の反対方向にむかって走っているため、チェーンソーが作業者方向に押される。

5.1 伐木

(1) 伐倒方向の選定

伐倒方向は、立ち木の状態、隣接する木などの状況、地形、風向き、伐倒後の作業方法、材損傷の防止などを考慮して、安全で確実に倒せる方向を選定します。

●周囲の状況

- ・ 枝がらみ、つるがらみなどの有無
- ・ 伐倒方向線上の障害物の有無
- ・ 跳ね返りの可能性などの有無
を判断して方向を選択

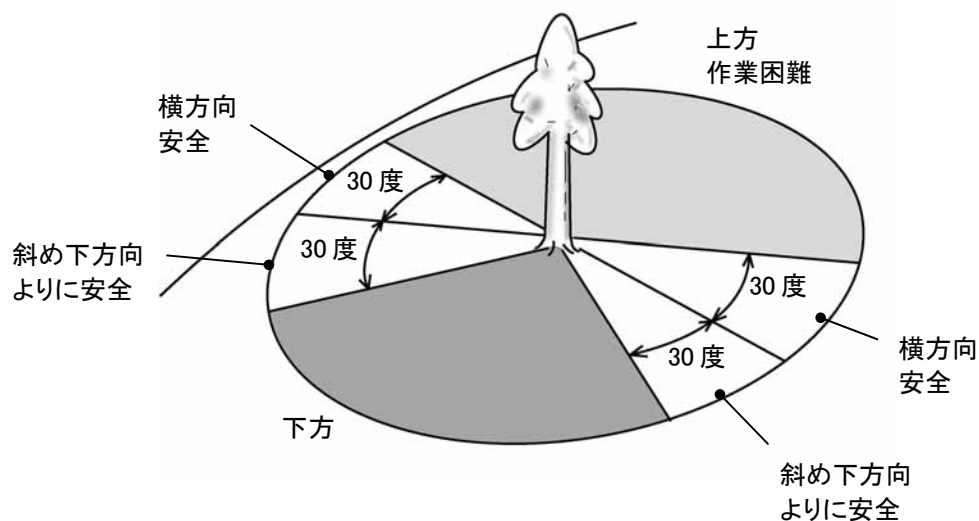
●重心位置

立ち木の傾き、曲がり、枝の張り具合などから重心位置を判断する。



●傾斜地での伐倒方向

- ・ 横方向へ伐倒すると材の安定がよく、伐倒後の作業が容易。ただし重心を移動させて倒すため、多少熟練を要する。
- ・ 斜め下方への伐倒は、重心方向に近い方向に倒すことが多く、比較的作業が容易。



●下方、上方向に伐倒した場合

- ・ 重心が谷側にある木を下方に倒すと、倒れるときの速度が最も大きくなり、木が折れて材が損傷しやすく、折れた幹や枝などが飛散することがある。
- ・ 上方向への伐倒は可能だが、起こし木になり、倒れるときに元口が作業者に当たったり、倒れた木が落下する際に作業者を巻き込んだりする恐れがある。

5.1 伐木

(2) 準備

作業を安全に行うために危険区域を知らせ、伐倒する立ち木の前処理を行います。

●立入り禁止区域の確認

伐倒する立ち木の1.5倍の距離範囲を危険区域として、他の作業者などを立ち入らせないこと。

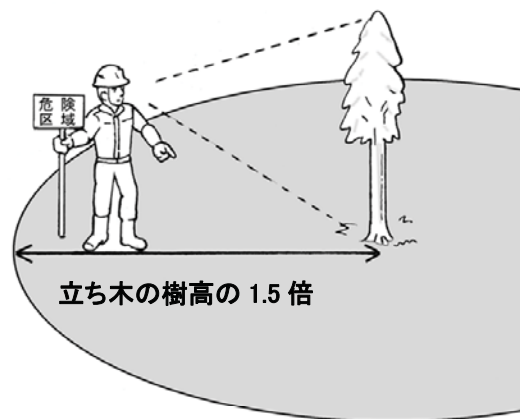
●前処理

- ・伐倒する立ち木のかかり木、隣接木との枝がらみ、つるがらみ、などを切り離す。落下の恐れがある枯枝などを確実に処理する。



木に登って枝切り、つる切りなどをする場合、20頁の“高所および枝打ち作業時の安全”に従って作業すること。

- ・作業に支障となる周囲のかん木、笹、浮石などを除去する。



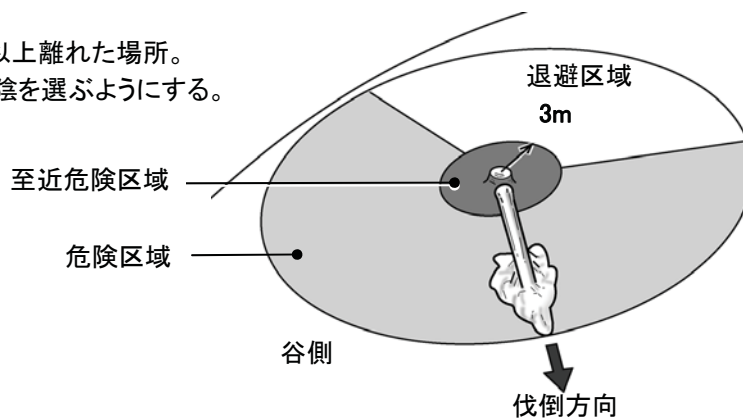
立ち木の樹高の1.5倍

(3) 退避場所の確保

退避通路および退避場所をあらかじめ選定します。

●退避場所

伐倒方向の反対側で3m以上離れた場所。
できるだけ、立ち木などの陰を選ぶようにする。



●退避路

かん木、笹など退避時の障害となるものを取り除いておく。また退避路に作業用具などを置かない。



5.1 伐木

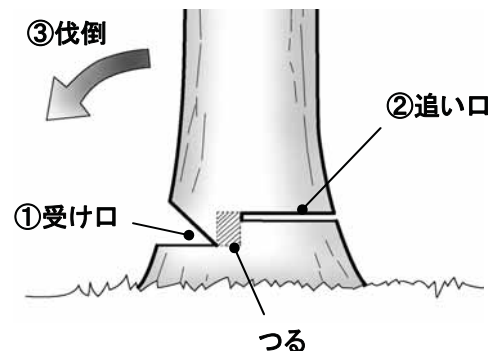
(4) 伐倒方法

伐倒は始めに“受け口”を切り、次に“つる”を残して“追い口”を切り込んで立ち木を倒します。

受け口と追い口の位置、切り方、深さ、および“つる”の機能と性質などを理解してから行う。
つるの機能(29頁参照)

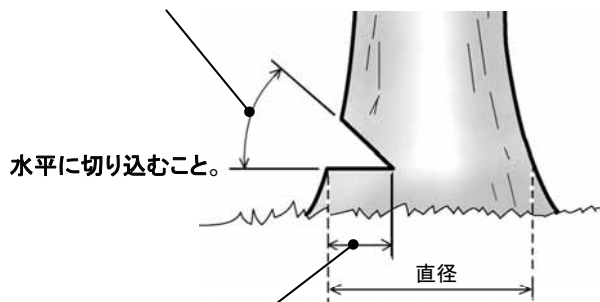


“つる”の大きさは樹木の種類、立ち木の形状、重心位置などで変える必要があり、あらかじめ“つる”の高さと幅を決めてから、受け口切り、追い口切りを行うこと。



(5) 受け口切り

斜め切り角度は 30～45 度

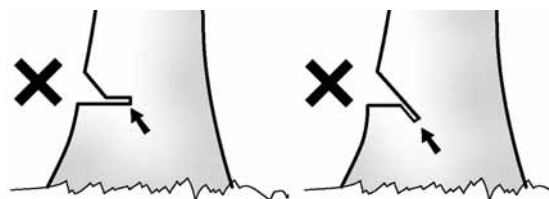


下切りの深さは伐根直径の約1/4以上



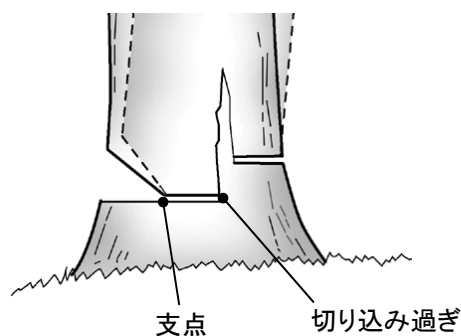
下切りと斜め切りは、終りの部分で必ず一致させること。

大径木で伐倒に支障がある根張りを切り取る



● 切り込み過ぎの例

受け口が一致していないと“つる”の機能が低下、追い口切りしたとき早く倒れたり、裂けたり、引き抜けたりして危険。

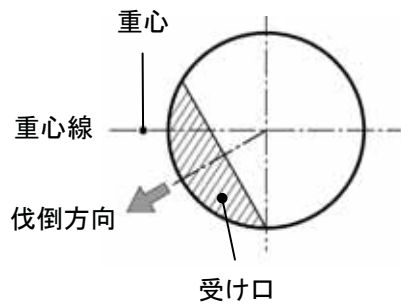


5.1 伐木

(5) 受け口切りのつづき

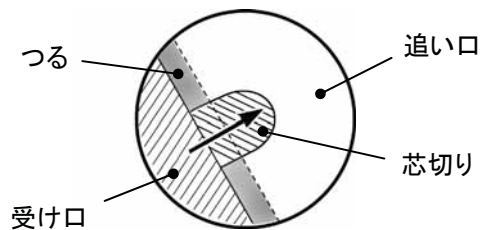
● 傾き木の受け口切り

傾いている木を重心方向へ倒すと、追い口を切り終える前に倒れ始める恐れがあるため、重心線方向から左右どちらかに受け口をずらすこと。
傾き程度にもよるが、30度くらい方向を変える。



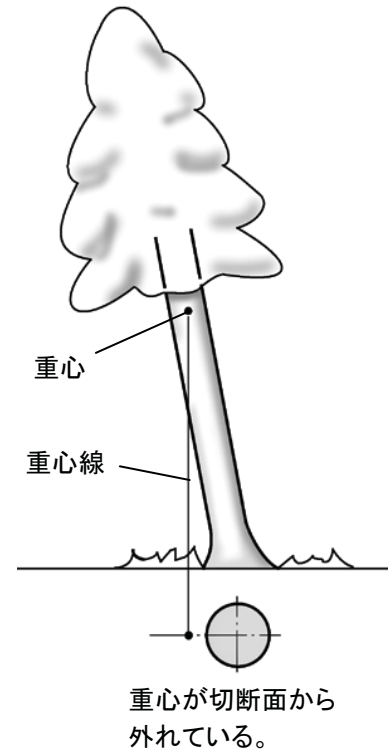
● 大径木は、芯切りを合わせて行う。

裂け、芯抜け(やり)、伐倒方向のずれを防止する。

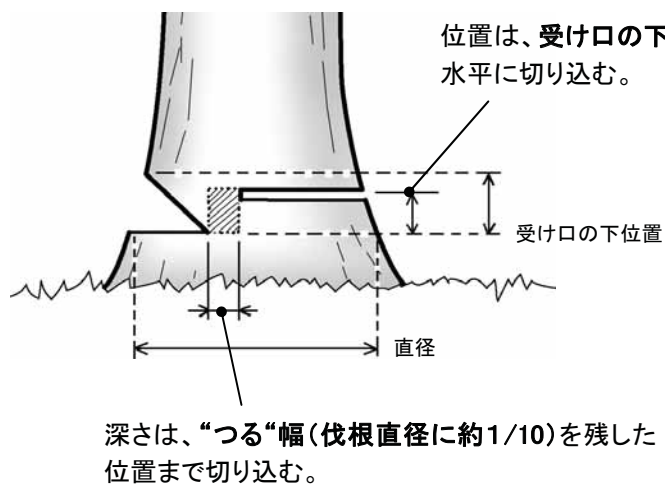


● 立ち木の重心線位置

通常立ち木の重心は樹高の1/2~1/3の高さにある。



(6) 追い口切り



切り込み過ぎると危険。



5.1 伐木

(7) 伐倒の合図

伐倒時、定められた合図を呼子または大声で必ず行い、周囲の作業者および通行者などの安全を確保する。安衛則 第479条(伐倒の合図)

合図は次のように行う。

①受け口切り開始直前に……………**予告合図**

②追い口切り開始直前に……………**本合図**

※クサビ打ちなどで、追い口切りから倒れるまでに時間がかかる場合はクサビ打ちの直前に合図する。

③伐倒後、材が安定し、周囲の安全を確認してから……………**終了合図**



(8) 退 避



追い口が浮き始めたら退避場所へ直ちに退避すること。

- ・素早い退避に心がけ、場合によっては用具類を置いたまま退避する。



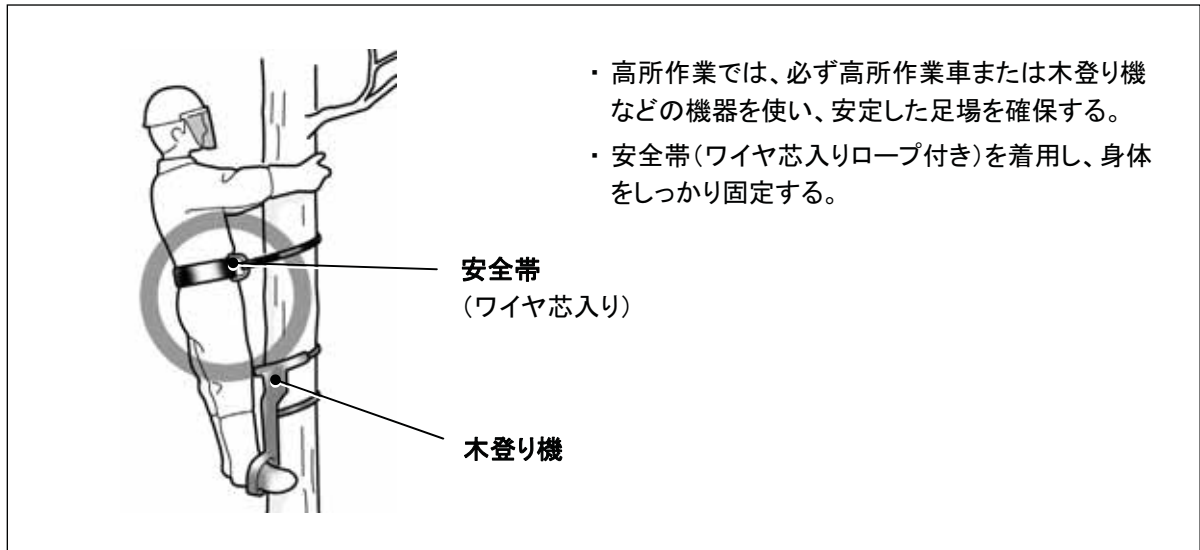
- ・退避場所では、伐倒木の跳ね返り、回り木、枝の飛来に注意する。
- ・退避場所から出る時は、伐倒木が安定し、上方からの落下物がないことを確認する。



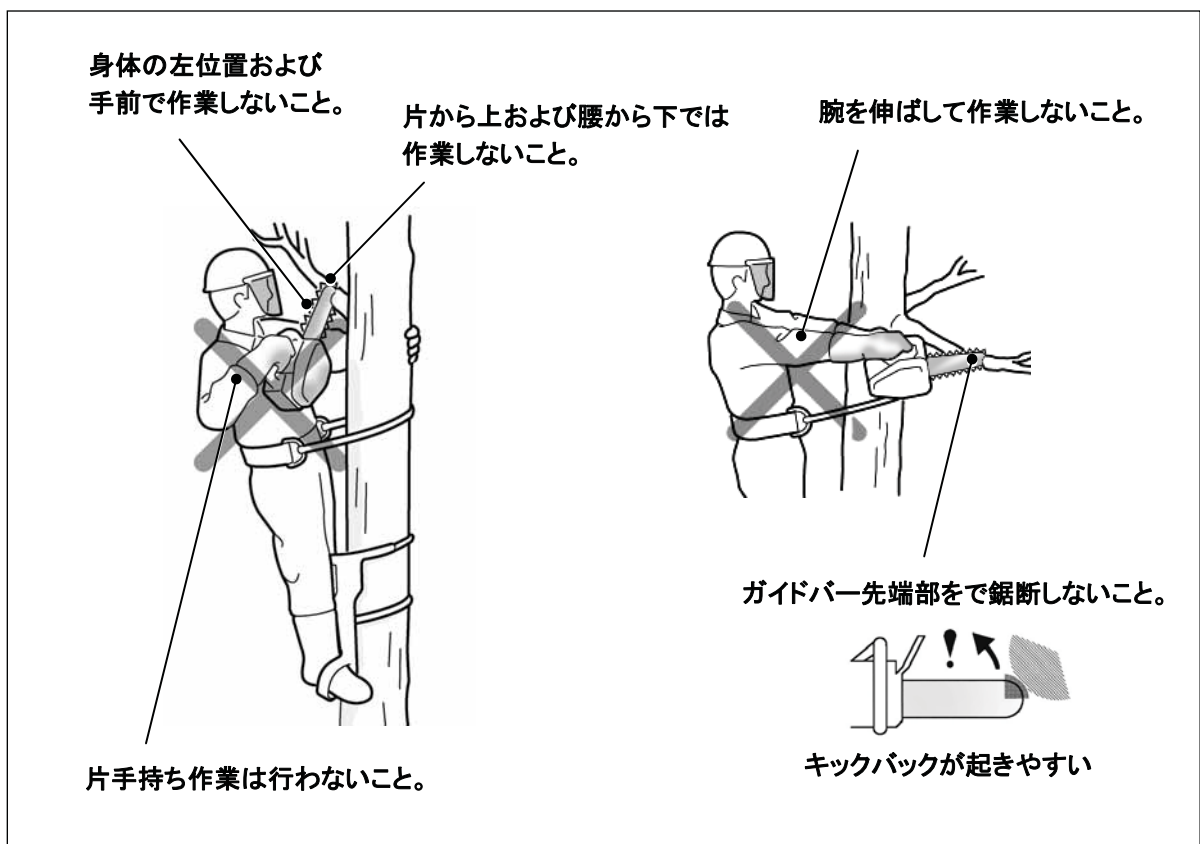
5.2 高所および枝打ち作業時の安全

枝打ちなどの高所(高さ2mを超える箇所)作業では、足場が不安定になり非常に危険です。
次の内容を厳守して、安全に作業してください。また、作業前に専門家などの技術指導を受け、訓練したうえで作業に従事してください。

(1) 高所作業用機器の使用



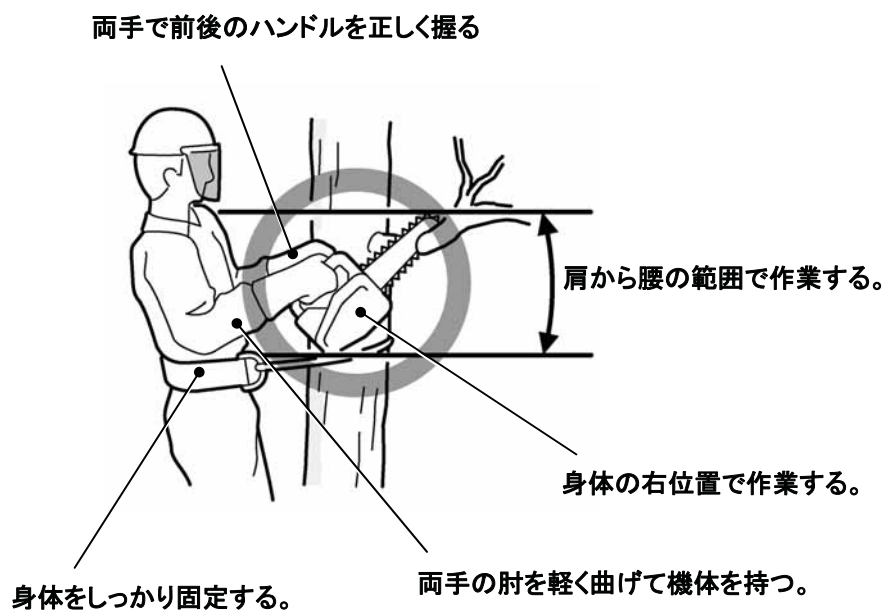
(2) 作業時の禁止事項



5.2 高所および枝打ち作業時の安全

(3) 作業時の留意点

- ・ エンジンの始動は地上で行う。
 - ・ エンジンの回転を安定させた後、アイドル状態でソーチェンが回っていないことを確認する。
 - ・ スロットルレバー誤操作防止のセーフティロックが確実に作動することを確認する。
- 上記確認後、木の上および高所に移動する。

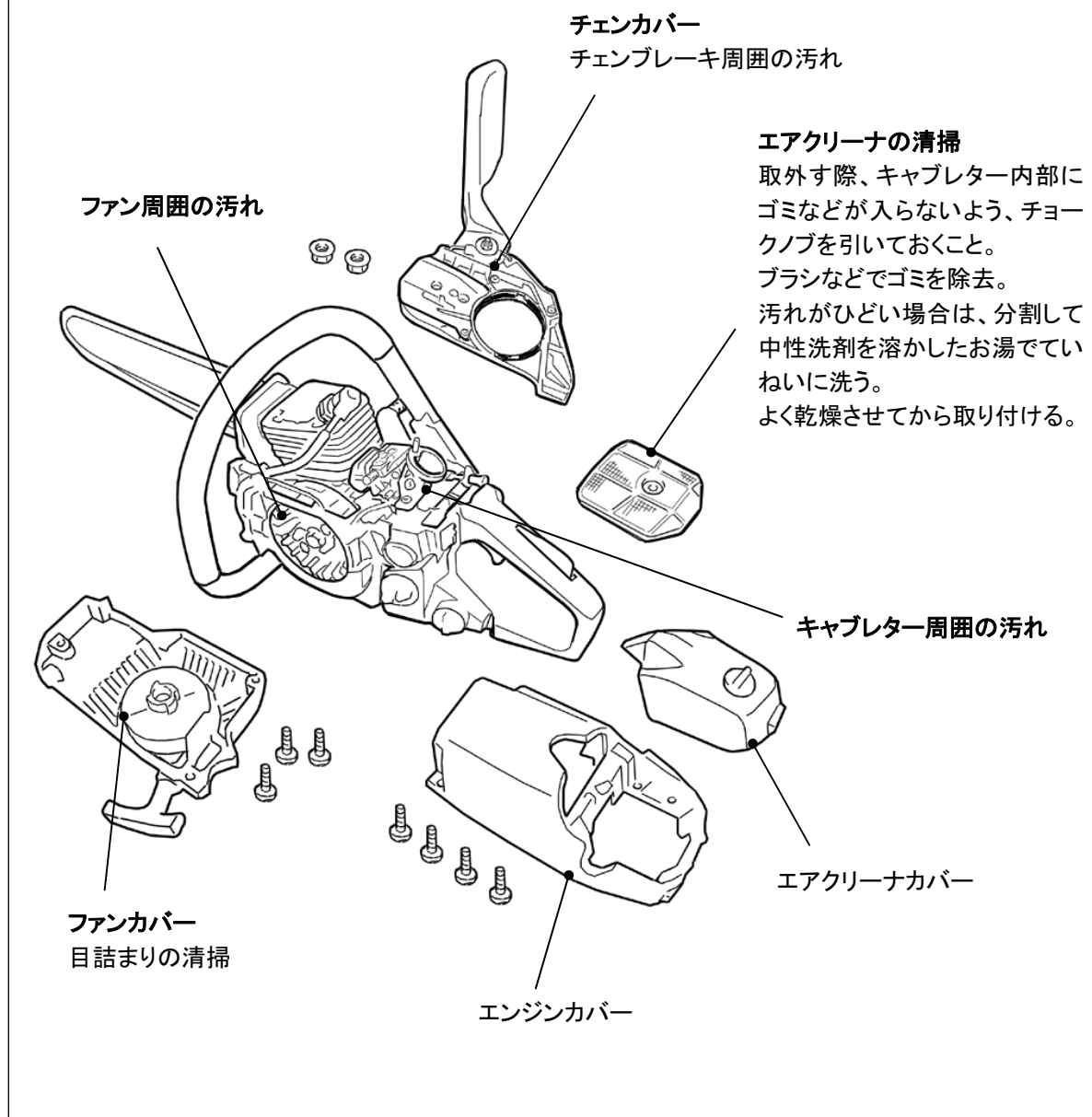


6.1 点検時期と内容

チェーンソーは定期的に点検を実施してください。点検の結果、異常を認めたときは修理・調整等を必ず行ってください。また、損傷した部品は必ず交換してください。

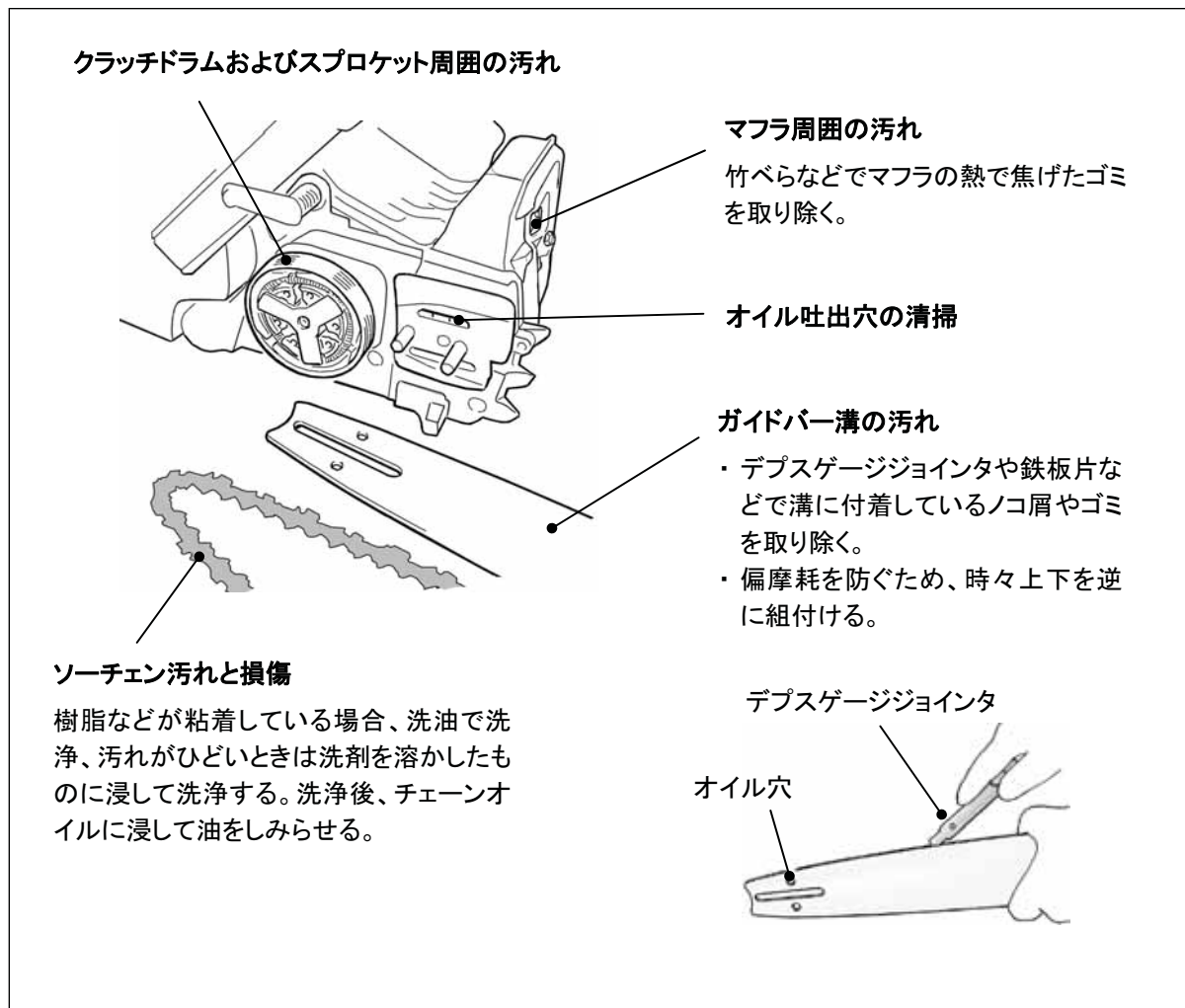
(1) 毎日点検

- ・主に清掃と異常の有無を点検。
- ・ネジ、ボルト類のゆるみ、部品などの脱落を確認。特に部品のひびに注意。



6.1 点検時期と内容

(1) 毎日点検のつづき



6.1 点検時期と内容

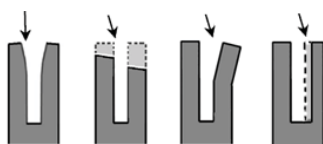
(2) 毎週点検

シリンダ冷却フィンの汚れ、詰まりおよび損傷

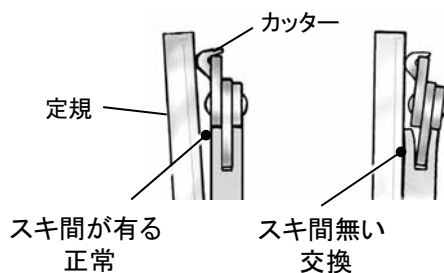
竹べらなどで全てのフィンに付いている汚れを清掃。過熱によるエンジンの損傷を防止。

ガイドバーレール部の変形、摩耗

反り、変形、左右の段違いまたは厚さの違いなど。

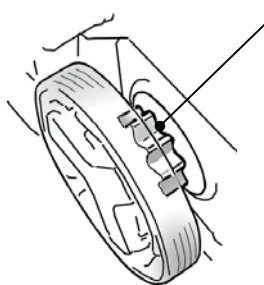
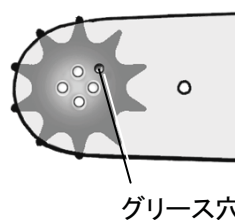


ソーチェンをセットし、ガイドバーとカッターの外側に定規を当てて、ガイドバーと定規のスキ間を点検。スキ間があればガイドバーは正常。スキ間がない場合、レール部が磨耗、新品に交換。



スプロケットノーズバーの破損、変色

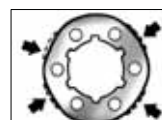
変色している場合はグリース穴から注油。



スプロケットの摩耗、損傷

0.3mm以上の摩耗または傷が入っている場合は交換。

- ・ 星型スプロケット
ドライブリック噛合い部の摩耗
- ・ リムスプロケット
リム外周の摩耗



オイルタンク
エアブリーザ

燃料タンク
エアブリーザ

燃料およびオイルフィルタの清掃

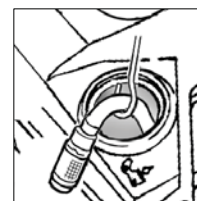
※同時にエアブリーザ(空気穴)も清掃

- ・ 燃料フィルタの目詰まりは、エンジン回転の変動や出力不足の原因となる。
- ・ オイルフィルタの目詰まりは、吐出量が低下、ソーチェンおよびガイドバーの早期摩耗の原因となる。

燃料フィルタ



オイルフィルタ



6.1 点検時期と内容

(3) 毎月点検

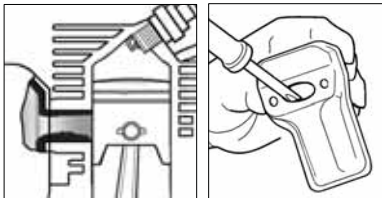


クラッチの清掃と摩耗

- ・クラッチの油污れ、ゴミを清掃
- ・シューの摩耗点検、交換時は全て同時交換
- ・クラッチスプリングのヘタリ
- ・クラッチドラム摩耗、偏芯
手で回してスムーズに回転することを確認。

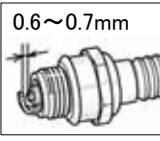
マフラの清掃と損傷

- ・マフラ排気口のカーボンを清掃。
- ・シリンダ排気口のカーボンを竹べらなどで清掃。この時、カーボンがシリンダの中に入らないように、ピストンは上死点近すること。

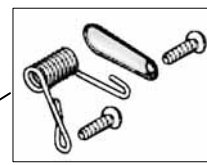


スパークプラグの汚損

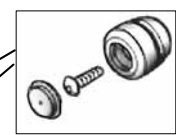
- ・カーボンの付着を清掃。
- ・必要に応じて電極のすき間を調整。



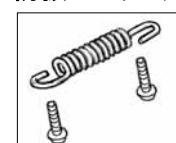
防振スプリング



防振ゴム

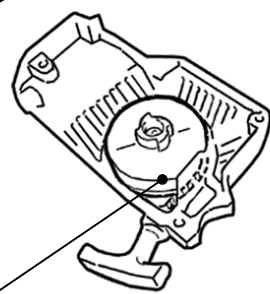


防振スプリング



リコイルスタータ汚れと損傷

ロープの戻り具合と損傷。
必要ならば分解清掃する。
ラチェット(つめ)が損傷している場合は交換。



燃料タンクおよびオイルタンク内部の清掃と損傷

タンク内部をガソリンで洗浄、堆積したゴミを除去する。

防振ゴムの劣化と損傷

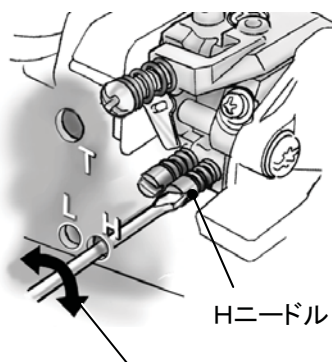
- ・亀裂、接着面のはく離しているものは交換。
- ・防振効果を維持するため、全てのゴムを同時に交換。

防振スプリングのヘタリと締付け状態

防振効果を維持するため、全てのスプリングを同時に交換。

6.2 エンジンの調整

(1) 燃料ニードルの調整



基準開度から±1/4回転

⑤ Hニードルを調整する。

- 1) Lニードル調整後、スロットルを全開にする。
- 2) 全開状態での安定性と加速性を確認。
必要になれば、左右にHニードルを許容範囲内（±1/4回転）回して、最適な位置にセットする。
右に回す：高速運転時の混合気が薄くなり、回し過ぎると出力不足、超過回転の原因となる。
左に回す：混合気が濃くなり、回し過ぎると燃費が悪くなる。

6.3 故障の発見

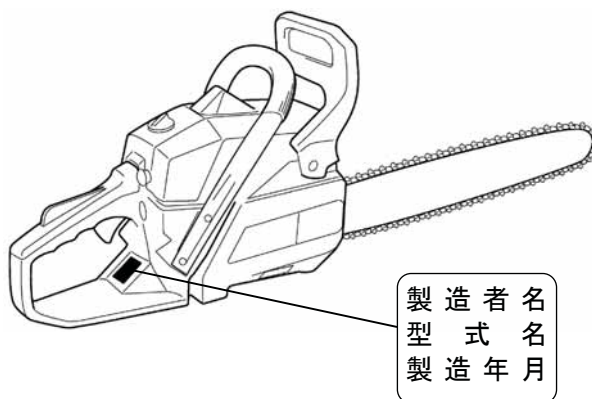
運転中、過熱、振動、騒音又は排気の色などで異常を認めたときは、直ちに運転を止め、原因を確かめて補修、調整を行います。

①これは五感、即ち「視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚」に頼ることが多いものです。日々の作業を通じて、自然につかみとってください。

②故障の発見と処置

故障した場合は、作業や操作状況などから故障の箇所と内容を把握し、故障の程度に応じて必要な措置をします。

- 修理に着手する前に、“取扱説明書”を熟読してから着手してください。
- 修理にあたっては、次頁の「故障診断」を参考にしてください。
- 販売店に部品を注文される時は、故障内容とチェンソー製造元、機種名、型式名、製造番号を連絡すればまちがいがありません。
- 販売店に依頼される時は、不具合発生状況、使用期間を連絡するようにします。



6.4 故障診断

現 象	主 な 原 因	処 置
エンジンが始動しない	・エンジンスイッチが「停止」位置になっている	・スイッチを「運転」位置にする
	・燃料不良(異質、劣化)	・正しい燃料と交換
	・燃料吸い込み過ぎ	・チョークを開き、スロットルを全開にしてロープを繰り返し引く
	・マフラ排気出口詰まり	・詰まり除去
	・スパークプラグ電極汚損、短絡、断線	・電極清掃またはプラグ交換★
	・エンジンスイッチの故障(短絡)	・スイッチを交換★
停止スイッチを操作してもエンジンが止まらない	・エンジンスイッチの故障(接触不良)	・スイッチを交換★
エンジン回転を上げてもソーチェンが回らない	・チェンブレイキがかかっている	・ブレイキを解除
エンジンが加速しない	・燃料不良(異質、劣化)	・正規燃料と交換
	・燃料フィルタ目詰まり	・フィルタ清掃または交換★
	・燃料ニードルの絞り過ぎ	・エンジン再調整
	・マフラ排気口詰まり	・マフラ清掃
スロットルを戻すとエンストする	・アイドル回転数が低過ぎる	・再調整
スロットルを戻してもソーチェンが回り続ける	・アイドル回転数が高過ぎる	・再調整
エンジン回転が変動する	・燃料フィルタ目詰まり	・フィルタ清掃または交換★
強く押し付けないと切れない	・ソーチェンの切れ味低下	・ソーチェンの目立て
まっすぐ切れない	・左右のカッタの切れ味が不均等	・ソーチェンの目立て
ソーチェンが外れやすい	・ソーチェンの張りがゆる過ぎる	・再調整
燃費が悪化	・エアクリーナが目詰まり	・エアクリーナの清掃
	・ソーチェンの切れ味低下	・ソーチェンの目立て
	・燃料ニードルの開き過ぎ	・再調整

上記処置を講じても現象が改善しない場合や、上記以外の不調現象が生じた場合は、販売店にご相談ください。★印のついている処置につきましては販売店で純正部品をお求めください。



- 機械の改造や分解等はしないでください。運転時に機体が破損したり、燃料漏れたりして、作動不良による不測の事故を招くおそれがあります。
- 点検処置時はタバコなどの火気を遠ざけてください。燃料に引火するおそれがあります。
- 機体各部の締結部品(ボルト、ナット、ネジ類)は必ず純正品または指定品を使用してください。規格外品を使用すると、使用中に機体が破損したり部品が脱落したりして不測の事故を招くおそれがあります。



修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は
まず、お買い上げの販売店へお申し出下さい。

製品・技術・その他のお問い合わせ

ハスクバーナ・ゼノア株式会社 国内営業本部



0570-084987

月～金/9:00～17:00(土日祝、弊社指定休業日は除く)

<http://www.zenoah.co.jp/>

ハスクバーナ・ゼノア株式会社

本社: 〒350-1165 埼玉県川越市南台 1-9